

横顔
新インタビュー

歴史を継承 後進育て未来へ

熊本大学の産科婦人科学講座の教授に6月、近藤英治氏が就任した。周産期とがん医療で実績のある講座の伝統を引き継ぎ、県内の医療体制をさらに充実させることを目標に掲げる。

熊本大学大学院生命科学研究部
産科婦人科学講座

近藤 英治 教授

1999年京都大学医学部卒業。長浜赤十字病院、米テューク大学留学。京都大学大学院医学研究科助教、同講師、同准教授などを経て、2021年から現職。

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座
熊本市中央区本荘1-1-1 0206-344-2111(代表)
http://kumada-obgyn.net/



伝統を受け継ぎ 口ボ手術も充実

1896年(明治29年)に開設された歴史ある講座。開成された歴史ある講座に、第10代教授として名を連ねた「産婦人科は人の命をから守る」と、産婦人科を盛り立てることができれば、街も元気になるはず。と考えているのは、産婦人科分野における腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の導入が、県内の主要な病院で最先端の手術が受けられるように技術を普及させ、数百年前が専門とする分野のことが、周産期医療、熊本県はしっかりと周産期医療体制が構築され、役割分担もなされています。この体制を継続して、安心・安全な周産期医療を提供していきます。

もう一つの専門は、がん医療。先代教授の片岡秀隆氏が注力した子宮頸がん(子宮がん)の啓蒙をはじめとするがん医療を引き継いで、今後発展させていきたいと考えているのは、産婦人科分野における腹腔鏡下手術やロボット支援下手術の導入が、県内の主要な病院で最先端の手術が受けられるように技術を普及させ、数百年前が専門とする分野のことが、周産期医療、熊本県はしっかりと周産期医療体制が構築され、役割分担もなされています。この体制を継続して、安心・安全な周産期医療を提供していきます。

恩師の教え 熊本の地で「恩送り」

大阪府出身で、京都大学で学んだ。同大学で当時教授だった藤井信吾氏(現：京都大学名誉教授)に熱心な動話を受けたことをきっかけに、産婦人科医のキャリアをスタートさせた。藤井氏には、絶対に手を抜かない、言い訳する医療者をしてはいけない、患者には家族と同様に対応を心がけ、という医師としての根柢に持つべき考え方を教わった。同様の考え方は、熊本大学のスタッフの中にも根付いていると感じるという。

恩師が多くの、一人ひとりが十分に力を発揮できるような風通しの良い環境をつくるのが、私の仕事。自分が育ててもらった恩義を、次の世代に伝えていく「恩送り」をすることが、私の最大の使命です。



腹腔鏡下手術の練習をするスタッフ

人育成は、比率の高い女性医師のライフイベントも考慮しながら進め、10、20年と時間はかかるでしょうが、人をたくさん育てたい。恩師のように、研究にも手をつけたい。

「誰かのために」 年々思い強固に

これまで、うれしいこと、い通りにいかないことも多々経験してきた。命の誕生、産婦人科医は人に優しく生じ携わる一方、がん患者や妊婦がなくなるケースも目の当たりにしてきた。妊産を望む人が、その予通りに分娩(ぶんべん)が進行しないことなど、思

持続性を重視し、方法模索 熊本の産婦人科医療をけん引



近藤氏(前列中央)と講座のスタッフたち

県内の状況把握し 医療体制支える

県内の産婦人科医療の現状にも、き細かく目を配って、6月の教授就任以降、慢性的な医師不足に陥っている病院や、単身赴任で家族とかなかなか会えない医師の存在など、県内の状況が徐々に分かってきた。医師の高齢化も進んでおり、最善の医療を提供するために、チームが進む方向をふれずに示す。そして、教室や関連病院で働く人ひとりが仕事を通じて成長し、充実感や幸福感を抱くことができるよう職場環境を整備に注力している。自然と多くの人が集まり、その魅力ある教室を目指して

効率的・効果的な治療へ

第72回肥後医育塾

知っておきたい次世代がん治療

「がんの個性を知るための病理診断とゲノム医療」

座長あいさつ

病理組織診断はがんの個性診る重要ステップ



三上 芳喜氏

「がん」は個性が非常に大きく、同じ「がん」でも、部位やタイプによって、その個性が異なる。がんの個性を知るためには、病理組織診断が重要なステップである。病理組織診断は、がんの個性を知るための重要なステップである。病理組織診断は、がんの個性を知るための重要なステップである。

講演動画を熊日YouTubeチャンネルで公開
2月7日収録した講演の様子を熊日YouTubeチャンネルで公開中です。0月、このチャンネルで公開されています。

第72回肥後医育塾公開セミナー「知っておきたい次世代がん治療」が2月7日、熊本市中央区市医師会館で開催された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客で行われ、講演内容は熊日YouTubeチャンネルできょうから動画配信される。主催は公益財団法人肥後医育振興会、一般財団法人化学及血清療法研究所、熊日新聞社。



松井 啓隆氏

講演① 遺伝子異常が明らかに 適切な治療薬の選択にも一役

がん治療は、遺伝子異常の有無によって、適切な治療薬を選択することが重要である。遺伝子異常は、がんの個性を知るための重要なステップである。遺伝子異常は、がんの個性を知るための重要なステップである。



川上 史氏

講演② がんゲノム医療と新時代の病理診断

がん治療の柱として高い期待 医療の発展につながる意義も

がん治療の柱として高い期待が寄せられているがんゲノム医療。がんゲノム医療は、がんの個性を知るための重要なステップである。がんゲノム医療は、がんの個性を知るための重要なステップである。

知っておきたい次世代がん治療 ～がんの個性を知るための病理診断とゲノム医療～

がん遺伝子の異常見つけ



熊日新聞から撮影に寄せられた写真に加工したイラスト ©熊本市中央区市医師会館

＜主催者あいさつ＞ 西 勝英氏 肥後医育振興会 理事長	＜座長＞ 三上 芳喜氏 熊本大学病院 病理診断科 教授
＜講師＞ 松井 啓隆氏 熊本大学大学院 生命科学研究部 放射線病態発生学講座 教授	＜講演者＞ 川上 史氏 熊本大学病院 病理診断科 特任助教
＜司会＞ 片瀨 秀隆氏 肥後医育振興会 常任理事	＜山本 春風氏＞ 熊本赤十字病院 血液・腫瘍内科 副部長

質疑応答

Q がん遺伝子の異常を見つけたら、どのような治療が受けられるのでしょうか？

A がん遺伝子の異常を見つけたら、がんの個性を知るための重要なステップである。がんの個性を知るための重要なステップである。

Q がん遺伝子の異常を見つけたら、どのような治療が受けられるのでしょうか？

A がん遺伝子の異常を見つけたら、がんの個性を知るための重要なステップである。がんの個性を知るための重要なステップである。

講演③ 標準治療で治らないなど条件 担当主治医としっかりと相談を

がん治療は、標準治療で治らないなど条件がある場合は、担当主治医としっかりと相談をすることが重要である。がん治療は、標準治療で治らないなど条件がある場合は、担当主治医としっかりと相談をすることが重要である。

肥後医育塾

「肥後医育塾」は、肥後医育振興会（西峰理事員）と化学及血清療法研究所、熊日新聞社が1997年度から始めた市民公開セミナーです。医学の正しい情報を広く伝えるとともに、これからの医療・医療者を育てることを目的としています。



2019年1月に開かれたセミナーの様子